

# 地域交通再生を市民目線で考える 人と環境にやさしい交通を めざす 全国大会 in 上田

## 交通 NEWS EYE

2019年3月以来5年ぶりの実開催で、地域交通を考える市民フォーラムが復活しました。3月16、17の両日、長野県上田市で開かれた「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 上田」。

北陸新幹線のほか、しなの鉄道と上田電鉄の鉄道3線が走る人口15万人強の上田市は、「公共交通の再生」を政策の柱に掲げ、人が主役のまちづくりに挑戦します。本コラム特集は、大会パネルディスカッションでの二つの発言に注目。そこから展開する形で、地方都市の交通の現状や課題をひも解きます。

### 発言1

「上田電鉄は高い割引率の通学定期を発売するが、割引の原資は一般利用客の運賃。マイカー移動する多くの上田市民に負担はない。一部利用客の負担で通学生が恩恵を受ける。こうした受益と負担の関係には一定の疑問が残る」

### 鉄道やバスが減便・廃止… マイカー利用市民の負担なし

パネルディスカッションのコーディネーターを務めた、関西大学経済学部教授の宇都宮浄人さんの発言です。

上田電鉄が2020年度から発売する「12ヶ月通学定期券」。8・4カ月の運賃で1年間利用できる。鉄道離れが懸念される、学生利用を維持しようとする知恵を絞りました。

上田市などの調査によると、市民の通勤手段の73%はマイカー。鉄道の6%やバスの1%に大差を付けます。しかし、クルマがあれば公共交通がなくても大丈夫…ではもちろんなく、市民が抱える将来の不安のトップは「運転できなくなると、移動に困ること」。全国大会のシヨンは、



交通まちづくりがテーマのパネルディスカッションで意見を交わす宇都宮さん(左端)、阿部さん(左から3人目)、土屋さん(同5人目)

### 発言2

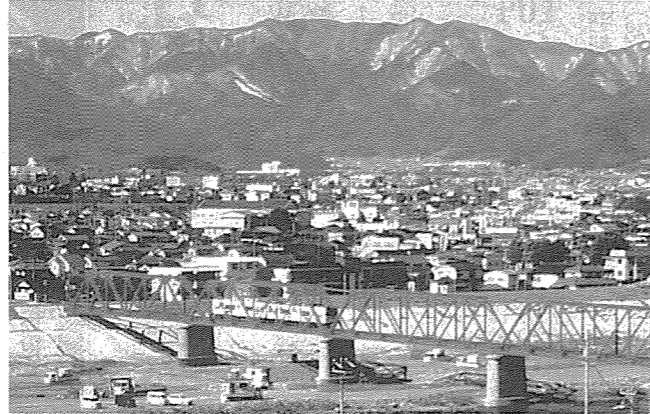
「国土交通省には鉄道局と自動車局、道路局があって、道路局は多くの予算を持つ。われわれ地方行政の要望先も、多くは道路局だった。鉄道局や自動車局に足が向かなかつたのは、公共交通を事業者任せにしていた一面があったからだ」

### 「赤い鉄橋」を上田市が再建 経営上下分離で1年半ぶりに

上田市が保有、上田市の鉄橋を借りて、上田電鉄が運行します。橋りょう再建工事でも市が主体になることで、国の支援を受けられるようになりま

県知事の阿部守一さんからも注目すべき発言がありました。「現在の国土省の予算額をみると、道路は桁違いに鉄道より多い。しかし、道路予算を削って鉄道予算に回せという単純な図式にもならない。一つ提言すれば、国が道路、鉄道と予算の使い道を上から決めるのではなく、権限を地方に移譲して地域自らが交通政策を考えられるようにしてほしい。地方分権は依然として道半ば。政策の至近距離で意思決定できるようにしない限り、地方の衰退はますます進んでしまっただろう」

「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」は今年の上田で11回目。初回は05年6月の宇都宮で、以降おおむね2〜3年おきに京都、横浜、福井など主にLRT(次世代路面電車)を構想する、地方都市を巡回して回を重ねました。



大会初日のエクスカージョン(現地見学会)では上田電鉄の「赤い鉄橋」を見学。信州の鉄道を代表するシーンです

### 地域公共交通の維持・再生

## 権限を地方に移譲 地域自ら交通政策を

発言者は上田市長の土屋陽一さん。今回、全国大会が上田市で開かれたのは、上田電鉄別所線が1年半の長期運休を乗り越えて復活を遂げたことが背景にあります。

こうして21年3月28日、533日ぶりに「赤い鉄橋」に営業運転の列車が走り出しました。土屋市長が国土交通省鉄道局を訪ねたのは、実は橋りょうの再建が初め

「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」は今年の上田で11回目。初回は05年6月の宇都宮で、以降おおむね2〜3年おきに京都、横浜、福井など主にLRT(次世代路面電車)を構想する、地方都市を巡回して回を重ねました。

「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」は今年の上田で11回目。初回は05年6月の宇都宮で、以降おおむね2〜3年おきに京都、横浜、福井など主にLRT(次世代路面電車)を構想する、地方都市を巡回して回を重ねました。

上田一別所温泉間11.6kmの別所線、最近最大の危機が19年10月の台風19号による千曲川橋りょう

上田一別所温泉間11.6kmの別所線、最近最大の危機が19年10月の台風19号による千曲川橋りょう

上田一別所温泉間11.6kmの別所線、最近最大の危機が19年10月の台風19号による千曲川橋りょう

上田一別所温泉間11.6kmの別所線、最近最大の危機が19年10月の台風19号による千曲川橋りょう

### 全国大会の成果 「宇都宮LRT」 推進への原動力に



基調講演の「ミニバス」報告は、02年登場の「おーい」山駅発着ルー

# 鉄道やバスが減便・廃止…マイカー利用市民の負担なし

## 発言1

「上田電鉄は高い割引率の通学定期を発売するが、割引の原資は一般利用客の運賃。マイカー移動する多くの上田市民に負担はない。一部利用客の負担で通学生が恩恵を受ける。こうした受益と負担の関係には一定の疑問が残る」



交通まちづくりがテーマのパネルディスカッションで意見を交わす宇都宮さん（左端）、阿部さん（左から3人目）、土屋さん（同5人目）

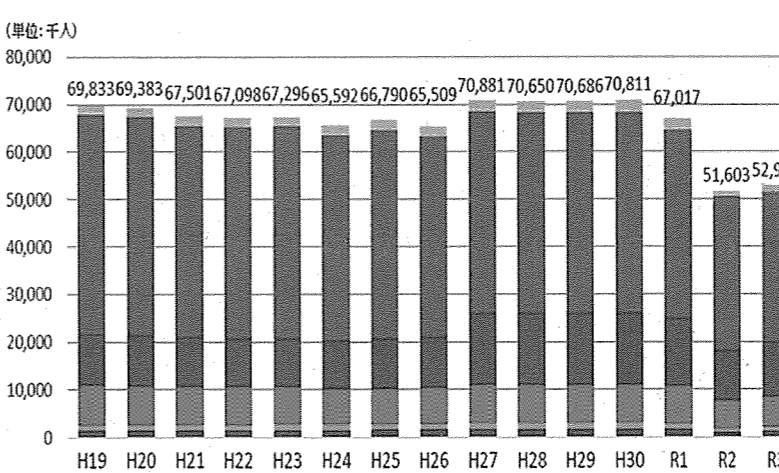
パネルディスカッションのコーディネーターを務めた、関西大学経済学部教授の宇都宮さん（左端）の発言です。上田電鉄が2020年度から発売する「12ヶ月通学定期券」。8・4カ月分の運賃で1年間利用できます。鉄道離れが懸念される、学生利用を維持しようとする知恵を絞りました。上田市などの調査によると、市民の通勤手段の73%はマイカー。鉄道の6%やバスの1%に大差を付けます。しかし、ク

ルマがあれば公共交通がなくても大丈夫……ではもちろんなく、市民が抱える将来の不安のトップは「運転できなくなると、移動に困ること」。全国大会のディスカッションでは、高校生の通学手段の「隠れ」、1位マイカー送迎が語りました。鉄道やバスの必要性を物語る。回答者は「公立」上田染谷丘高生160人。高校生は全員が鉄道・バス、自転車、徒歩通学のはずですが、隠れ1位がマイカーです。通学手段のトップは鉄道・バスの54%ながら、自宅から最寄り駅やバス停までは、「家族にマイカー送迎してもらおう」が72%。「家から学校までフル送迎してもらっている」の回答も9%ありました。

学アンケート調査が発表されました。回答者は「公立」上田染谷丘高生160人。高校生は全員が鉄道・バス、自転車、徒歩通学のはずですが、隠れ1位がマイカーです。通学手段のトップは鉄道・バスの54%ながら、自宅から最寄り駅やバス停までは、「家族にマイカー送迎してもらおう」が72%。「家から学校までフル送迎してもらっている」の回答も9%ありました。回答で最も多かったのは、「乗車時間帯にあわせたダイヤ」。運賃値下げ「駅やバス停の増設」「増便」が続きました。ここでポイント。駅・バス停まで送迎してもらって通学生も、多くは「家族に負担を掛けて申しわけない」と考えます。簡単に解決策が見つかる問題ではありませんが、このあたりに地域公共交通再生の突破口があるように思えます。

### 持続可能な地域公共交通へ

## 使いやすいダイヤ、値段、駅・バス停増設など課題



長野県内鉄道各線の輸送人員。北陸新幹線を除き、もっとも利用が多いのはJR在来線。しなの鉄道、長野電鉄、上田電鉄、アルピコ交通が続きます。シニアシクル普及。上田市による社会実験期間は今年3月20日〜12月1日、上田電鉄の通勤定期券が廃止された。場合によっては廃止もある。すると、負担しなかった市民が将来運賃でなくなった時、移動困難で自分が困ることになる。今回は踏み込んだ議論はありませんでした。高校生アンケートでは、電車・バスを利用しない通学生にどうすれば公共交通を使うかも質問しました。回答で最も多かったのは、「乗車時間帯にあわせたダイヤ」。

# 「赤い鉄橋」を上田市が再建 経営上下分離で1年半ぶりに

## 発言2

「国土交通省には鉄道局と自動車局、道路局があって、道路局は多くの予算を持つ。われわれ地方行政の要望先も、多くは道路局だった。鉄道局や自動車局に足が向かなかつたのは、公共交通を事業者任せにしていた一面があつたからだ」



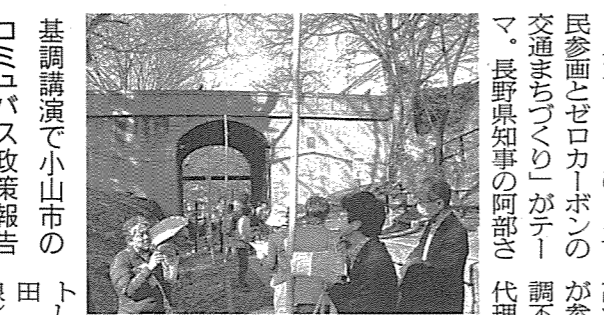
大会初日のエキスカーション（現地見学会）では上田電鉄の「赤い鉄橋」を見学。信州の鉄道を代表するシーンです

は上田市が保有、上田市の鉄橋を借りて、上田電鉄が運行します。橋りょう再建工事でも市が主体になることで、国の支援を受けられるようになりま

## 地域公共交通の維持・再生 権限を地方に移譲 地域自ら交通政策を

「人々環境にやさしい交通をめざす全国大会」は今回の上田で11回目。初回は05年6月の宇都宮で、以降おおむね2〜3年おきに京都、横浜、福井など主にLRT（次世代型路面電車）を構想する、地方都市を巡回して回を重ねました。

## 全国大会の成果 「宇都宮LRT」 推進への原動力に



大会2日目のパネルディスカッションは、「市民参画とゼロカーボンの交通まちづくり」がテーマ。長野県知事の阿部さ

ん、上田市長の土屋さんのほか、上田電鉄常務の國枝聡さん、地元市民会議・上田ビジョン研究会の藤川まゆみさんが登壇しました（上田染谷丘高からは新井アンジさんが参加予定でしたが、体調不良のため藤川さんが代理発表）。

発言者は上田市長の土屋一さん。今回、全国大会が上田市で開かれたのは、上田電鉄別所線が1年半の長期運休を乗り越えて復活を遂げたことが背景にあります。上田一別所温泉間11.6kmの別所線。最近最大の危機が19年10月の台風19号による千曲川橋りょうの復旧。再建された鉄橋

「国土交通省には鉄道局と自動車局、道路局があって、道路局は多くの予算を持つ。われわれ地方行政の要望先も、多くは道路局だった。鉄道局や自動車局に足が向かなかつたのは、公共交通を事業者任せにしていた一面があつたからだ」

「人々環境にやさしい交通をめざす全国大会」は今回の上田で11回目。初回は05年6月の宇都宮で、以降おおむね2〜3年おきに京都、横浜、福井など主にLRT（次世代型路面電車）を構想する、地方都市を巡回して回を重ねました。

「人々環境にやさしい交通をめざす全国大会」は今回の上田で11回目。初回は05年6月の宇都宮で、以降おおむね2〜3年おきに京都、横浜、福井など主にLRT（次世代型路面電車）を構想する、地方都市を巡回して回を重ねました。

■筆者紹介■ 上里 夏生（こうざと・なつお）。42年間在職した交通新聞社を2019年に退職。現在は交通ジャーナリストとして鉄道、観光、自動車業界の機関誌やインターネットメディアに寄稿。モットーは「読んだ方が鉄道をもっと好きになる記事やコラム」。なお、本稿は交通新聞とは直接関係ない筆者の見解である。